

# 柞木田 龍善（たらきだ・りゅうぜん）

## 1、プロフィール

作家。中里介山主宰の「西隣村塾」出身。読売新聞記者28年中、旅行記者17年、文化部宗教記者4年。旅の本、小説、「大菩薩会」理事として介山研究等。日本文芸家協会会員。

<生没>

1914(大正3)年11月10日～1998(平成10)年3月21日

<代表作>

昭和47年3月15日に読売新聞社より『中里介山伝』を発行する。正しい介山伝ができた、と「あとがき」に記す。

<青森との関わり>

八戸市に生まれる。12歳の時、八戸浄土宗成田龍観の弟子となる。その後に中里介山主宰の「西隣村塾」入塾。

## 2、作家解説

大正3年11月30日、八戸市に生まれる。大正15年、八戸市浄土宗成田龍観の弟子となる。その後、陸軍の少年兵となり、昭和9年、中里介山主宰の「西隣村塾」塾生となる。昭和10年1月10日、入営。昭和11年12月9日、兵隊が終わり、再び塾生。昭和12年5月、塾を出て職業人となる。昭和14年、青森歩兵第5連隊に入営。昭和15年5月19日、軍人会館「戦友・我が家」編集部に入る。昭和17年5月、2回目の召集を受けて満州に渡る。昭和22年6月、シベリア抑留より帰還復員。

昭和22年9月、読売新聞に復職。昭和25年から41年5月まで、読売新聞の行楽・旅行欄を担当(秘境探しの名人といわれ、山旅の本10冊を著す)。昭和41年6月～44年11月30日、定年退職するまで文化部宗教記者。読売新聞記者28年間の著作は、昭和27年の『四季の行楽』(日本交通公社)、昭和40年の『全

国秘境案内』(秋元書房)、『全国高原と湖の旅』(実業之日本社)、『日本の秘境』(読売新聞社)等。

昭和 45 年に小説『微笑仏』(木耳社)、昭和 47 年 3 月 15 日発行の『中里介山伝』(読売新聞社)、昭和 49 年 6 月 5 日発行の『秘境 歴史の旅』(新人物往来者)、昭和 52 年 5 月 20 日発行の『修験木喰』(佼成出版社)、昭和 54 年 9 月 1 日発行の『中里介山と武術』(体育とスポーツ出版社)、昭和 55 年 7 月 20 日発行の『修験の山々』(法蔵館)、昭和 57 年 6 月 25 日発行の小説『赤い満月』(叢文社)、昭和 59 年 12 月 10 日発行の『超古代史の謎に挑む』(風濤社)、昭和 61 年 10 月 15 日発行の『日本神道』(風濤社)、昭和 62 年 10 月 16 日発行の『大菩薩峠 作者中里介山伝』(天心大菩薩会)、昭和 63 年 11 月 16 日発行の『大菩薩峠 作者中里介山の思想』(天心大菩薩会)、『安徳天皇と日の宮幣立神宮』(新人物往来社)等の著作を発表。

日本文芸家協会会員で、「天心大菩薩会」理事。平成 10 年 3 月 21 日、肺炎による多臓器不全のため、山梨県竜天町のリハビリテーション病院にて死去。

### 3、資料紹介

#### ○『中里介山伝』

図書

1972(昭和 47)年 10 月 20 日

192mm×130mm

柞木田が上京後、昭和 9 年に中里介山主宰の「西隣村塾」の門を叩き、昭和 19 年 4 月 28 日に介山が亡くなるまで、弟子の 1 人であった。介山の実弟中里健から、笹本寅の『中里介山』を正す意味で、介山の記録・資料を手渡されて、真実の中里介山伝を執筆。